

# 潰瘍性大腸炎に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター消化器科では、関西医科大学病院の研究である「入院を要する活動性潰瘍性大腸炎に対する治療エビデンスの構築」に参加することになりました。

この研究の目的は、潰瘍性大腸炎に対する適切な治療薬の選択方法を明らかにすることです。以前はステロイドや血球成分吸着療法しか選択肢がありませんでしたが、その後、抗TNF $\alpha$ 抗体製剤（インフリキシマブ、アダリムマブ、ゴリムマブ）、JAK阻害剤（ゼルヤンツ）、IL12/23p40抗体（ステラール）、腸管選択的接着分子阻害剤（エンタイビオ）が使用できるようになり選択肢が増えました。しかし、最適な治療薬の選択方法については明確な根拠がありません。そこで、関連病院を含めて多施設のデータを集積・解析することで、より良い治療薬の選択を可能とすることを目的としています。

この研究のため、2020年10月より2022年10月末までに当院に入院されていた方の調査を行います。対象となるのは下記疾患になります。調査項目は個人情報を含まない医学的な情報（合併症の有無、治療経過など）のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。

対象疾患 潰瘍性大腸炎のため入院を要し治療強化が必要とされる患者さん

調査したデータは本研究の代表であります関西医科大学附属病院消化器肝臓内科にて厳重に管理されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。

この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2020年10月

研究責任者 中里 圭宏

東京医療センター 消化器科

連絡先 03-3411-0111(代表)